

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	灸実技3	
科目基礎情報					
開設学科	鍼灸科	コース名		開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	自作資料				
担当教員情報					
担当教員	安齋 勉		実務経験の有無・職種	有・鍼灸師	
学習目的					
日本に古くからある伝統的なお灸が、近年見直されてきている。「熱い」と思われているお灸の熱量を学生が自信を持ってコントロールしながら、すえられるようになることを目的とする。実際の現場では、治療のスピードも重要な要素となってくるので、学生が同じことを速く出来るように身に付けさせる。透熱灸・知熱灸ともに形よく、手際よく、速く、安心・安全にできる重要性を理解させるようになることも目的である。					
到達目標					
①学生が5分間で竹筒に80個以上すえて点火するだけでなく、硬くひねらないように行う。②学生が2種類の緩和操作方法（母指・示指）・（示指・中指）ができる。③学生が自分の思っている熱量と患者役の学生が感じる熱量とを一致することができる。④学生が知熱灸を一度に4個以上点火することができる。⑤安心・安全なお灸ができるようになることが目標である。					
教育方法等					
授業概要	5分間の竹筒に行う米粒大の透熱灸点火練習を行う。続いて学生同士でペアを組みこちらで作成した緩和和操作確認シートで、自分の感覚と患者役の学生が感じた熱量を確認しあう。授業の最後に反省点等を記載させ、提出してもらう。知熱灸練習も学生の技術が控除してきたところを見計らって、手技を教え、加えていく予定である。				
注意点	授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。 課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	90%	宿題提出状況、授業態度、欠席（減点）も加味する		
	小テスト	10%	筆記試験		
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	今後の授業の進め方		全体のガイダンス 1・2年次の復習		
2回	5分間竹筒灸練習 お灸課題（知熱緩和確認シート）①		母指・示指の緩和和操作を見せる		
3回	5分間竹筒灸練習 お灸課題（知熱緩和確認シート）②		示指・中指の緩和和操作を見せる		
4回	5分間竹筒灸練習 お灸課題（知熱緩和確認シート）③ 知熱灸練習		新しい知熱灸の技術を見せる		
5回	5分間竹筒灸練習 お灸課題（知熱緩和確認シート）④ 知熱灸練習		今までの技術を確認する		
6回	5分間竹筒灸練習 お灸課題（知熱緩和確認シート）⑤ 知熱灸練習		2点法を見せる		
7回	5分間竹筒灸練習 知熱灸練習 2点法練習		知熱灸・2点法の技術確認		
8回	5分間竹筒灸練習 知熱灸練習 2点法練習		知熱灸・2点法の技術確認		
9回	5分間竹筒灸練習 お灸課題（知熱緩和確認シート）⑥ 知熱灸練習		総合技術確認		
10回	5分間竹筒灸練習 お灸課題（知熱緩和確認シート）⑦ 知熱灸練習		総合技術確認、実技試験の概要説明		
11回	実技試験		教員の体にお灸をさせ技術確認		
12回	実技試験		教員の体にお灸をさせ技術確認		
13回	実技試験講評		各学生にフィードバックする		
14回	5分間竹筒灸練習 お灸課題（知熱緩和確認シート）⑧ 知熱灸練習		各学生の弱点がなくなる		
15回	5分間竹筒灸練習 お灸課題（知熱緩和確認シート）⑨ 知熱灸練習		各学生の弱点がなくなる		